

教育活動研究	3年・後期	1単位 15時間	准教授 堤 ひろゆき
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	37011333

1. 授業のねらい・概要

学校でなされる教育活動は非常に多様であり、教員や生徒をはじめとして、多くの人が関わることによって成り立っている。近年では、教育課程に位置付けられる活動にとどまらない活動も多様化し、とりわけ部活動などにおいて利点と問題点が指摘される。教員として学校での教育活動に関わらなければならない中で、学校における活動全般を理解し、よりよいものにしていく理論的な力と実践力の重要性は増している。本講義では、学生が特に学校での教育活動について理解することをテーマとしており、受講者が課題を発見し、改善策を提示できる理論的な実践力を身に付けることが目指される。

2. 学修の到達目標

1. 学校における活動全般について、基礎的な知識と理論を理解し、学術的に通用する言語を用いて表現できる。(D-1)
2. 学校における活動全般の利点や問題点について発見し、改善するための方法を考え、自分の言葉で記述することができる。(D-1)
3. 学校における活動全般を取りまく状況を学術的に通用する言語を用いて表現できる。(D-3)

3. 授業の進め方

講義形式も取り入れるが、各回に担当者を割り振り、文献講読、各受講者の興味に基づく報告と議論等を重視し、演習形式によって探求力を身に付ける。その上で、複数回学校の教育現場での実地研究を行う。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、フィールドワーク、調査学習、グループワーク、対話・議論型授業を用いる。

【ICT活用の有無】

ICT活用の実施：メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会。

4. 授業計画（講義・演習）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	学校での諸活動を考える意義 (ガイダンス)	講義	予習： 学外での活動に関する注意事項を確認する (特に教員の服務規程、個人情報取扱等)。 復習： 活動受け入れ先の学校を選定する。	堤ひろゆき
2	学校行事の歴史と実践	講義	予習： 文献講読を行うため、どのような内容を学びたいかを明確化しておく。 復習： 決定した課題文献の概要を調べる。	堤
3	部活動の歴史と実践	講義	予習： 課題文献を読み、知らない単語、わからない部分、気になる部分、議論したい点等をまとめる。 復習： 議論の内容を整理する。	堤
4	部活動の現在を理解するための理論	講義 演習	予習： 前回までの議論の内容をふまえ、課題文献を読み、知らない単語、わからない部分、気になる部分、議論したい点等をまとめる。 復習： 議論の内容を整理し、次回の文献への着眼点	堤

			を明確化する。	
5	学校での教育活動についての報告・議論①（部活動の諸問題）	講義 演習	予習：前回までの議論の内容をふまえ、課題文献を読み、知らない単語、わからない部分、気になる部分、議論したい点等をまとめる。 復習：議論の内容を整理し、次回の文献への着眼点を明確化する。	堤
6	学校での教育活動についての報告・議論②（学校への外部人材活用の可能性）	講義 演習	予習：前回までの議論の内容をふまえ、課題文献を読み、知らない単語、わからない部分、気になる部分、議論したい点等をまとめる。 復習：議論の内容を整理し、次回の文献への着眼点を明確化する。	堤
7	学校での教育活動についての報告・議論③（学校と地域との関わり）	講義 演習	予習：前回までの議論の内容をふまえ、課題文献を読み、知らない単語、わからない部分、気になる部分、議論したい点等をまとめる。 復習：議論の内容を整理し、次回の文献への着眼点を明確化する。	堤
8	総括	講義 演習	予習：見学受け入れ校の事前調査 復習：得られた経験をレポートにまとめる。	堤

5. 成績評価の方法・基準

実地研究でのレポート（25%）を基本とし、受講態度（25%）、報告への取り組み（25%）、講義への参加度（25%）を加味して総合的に判断する。評価基準は初回授業時および各回の授業において指示する。

評価対象物は、「2. 学修の到達目標」に示した達成状況を、ルーブリック評価表を基に、5段階評価で採点する。

ルーブリック評価表に関する詳細は、講義内で別途説明する。

6. テキスト・参考文献

講義時に指示する。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

現在の学校教育活動についてのニュース等を集め、分析するために1時間30分程度を要する。また、復習および予習に各回2時間程度を要する。

8. 受講上の留意事項

実際に学校教育現場へと向かう前に文献研究を中心として基礎を身につけることを希望する。その上で実地研究を行うため、それを念頭に置いて受講すること。

年度初めのガイダンス等で受講上の注意点をよく理解すること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

報告時に口頭にて講評を行う。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

教職課程修了のためには、本科目か「学校インターンシップ」のいずれかを取得する必要がある。

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される
該当しない。